

# Dr. 和の町医者日記



## 呼吸器シリーズ②

「風邪やインフルエンザが治って1カ月以上がたつのに、まだ空咳が続く」と訴えて、受診される人がたくさんいらっしゃいます。胸に聴診器を当てても呼吸音は正常。「たぶん咳ぜんそくだと思いますが…」と伝えると、必ず「それ、何ですか」と返ってきます。今回は「咳ぜんそく」という病名をまず覚えてください。

とにより起こる気管支のけいれんや炎症が本質ですが、発作と改善を繰り返す病気です。一方、咳ぜんそくは風邪やインフルエンザの後に長びく空咳が特徴です。熱もなければ、食欲も良好。ただ人と話すときに困ったり、布団に入るとせきが止まらなくなると安眠の障害になったりします。

2週間以上続く咳は、まず結核を疑うのが医療機関の常識です。そのため、必ず胸部のレントゲン写真を撮りますが、何も所見がない。これは気管支ぜんそくも同様です。医師は咳が続く場合、咳ぜんそくや肺結核以外にも、いくつかの病気を疑います。まず頭に浮かぶのはマイコプラズマ肺炎や百日咳。気管支ぜんそくや咳ぜんそくは炎症ですが、マイコプラズマ肺炎や百日咳は感染症なので両者の病態は異質です。

マイコプラズマ肺炎は肺炎の一種で、発熱や激しい咳、レントゲン上の陰影が特徴です。百日咳は周囲の流行情報も参考にあります。両者とも遺伝子診断や血液検査で抗体価を測定し、診断を確定させていきます。

マイコプラズマ肺炎や百日咳には、マクロライド系の抗生剤が特効薬です。昨今、「風邪に抗生剤を処方する医者はヤブ医者だ」といった内容が週刊誌などによく書かれています。風邪の大半はウイルス感染なので、細菌に作用する抗生剤は不要どころか、時に有害になります。しかし、マイコプラズマ肺炎や百

咳ぜんそくの治療 咳ぜんそくの治療には気管支ぜんそくに準じて、ステロイドや気管支拡張剤の吸入や内服が使われる。近年は、ステロイドと気管支拡張剤の両方の成分を混合した吸入薬による治療が主流。

日咳、一般の肺炎は、細菌感染症なので、抗生剤が有効なので。世界的に問題になっている抗生剤の過剰使用は、特に日本において顕著で、国を挙げて必要な抗生剤投与を控える方向にあります。抗生剤への耐性の菌が増えているのも事実です。ただ、使わねばならない時には使うべき薬です。

さて咳ぜんそくの治療ですが、気道の過敏性を抑えるため、ステロイドと気管支拡張剤を含んだ吸入薬が有効です。抗生剤は原則不要。気管支ぜんそくの治療とよく似ています。これもそのはずで、咳ぜんそくは気管支ぜんそくの前段階であると考えられています。

咳が続く場合は周囲の人に無用な心配を与えますから、放置せず早めに医療機関を受診してください。呼吸器科を掲げる医療機関が最良ですが、一般医のなかにも熱心な人がおられます。

咳ぜんそくは非常にありふれた病気ですが、実は気管支結核や肺がんだったということもあり得ます。肺の病気ではなく、心不全や逆流性食道炎だったなんてこともあり得るので、吸入薬の効果を慎重に見極める必要があります。

「とにかく今夜の咳を止めてほしい」という人には、ひと晩の絶食(水分は可)としばしの禁酒、そして喫煙者には禁煙を指示します。生活習慣の改善も、次々と発売される優れた吸入薬と並んで大切です。

H29. 1. 24



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。58歳。

## 長びく咳

# 「咳ぜんそく」知っていますか？